

平成 29 年度 東京都立戸山高等学校学校経営計画

校長 決定

## I 目指す学校

本校の輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、「国際社会に貢献するトップリーダー」を育成する学校を目指す。そのために、個々の生徒に応じたきめ細かな教育を充実させ、自主自立を促す教育を推進する。また、オリンピック・パラリンピック教育とSSH事業を活用して、豊かな国際感覚を醸成する。

上記の目指す学校を実現するため、全教職員が経営計画を組織目標として共有し、以下の方策を推進する。

### 1 強い意志と高い志の育成

新教科「人間と社会」及び本校独自のキャリア教育と進路指導を通じ、社会に貢献する意志と能力、大きな夢を実現する計画性、着実さ、粘り強さを育成する。

### 2 充実した授業

学問に対する興味・関心を抱かせ、学ぶ意欲を向上させる授業を行うことにより、生徒が、①自ら課題を発見し、自ら考え、判断し、工夫して、解決していく力 ②コミュニケーション能力 ③国際性及び日本の歴史と文化に対する幅広い教養 を身に付けられる教育を推進する。

### 3 メリハリのある学校生活

生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、学習を中心に置きつつ、学校行事や委員会活動、部活動等への積極的な参加を通じて、社会的自立と社会貢献への意欲と能力を育成する。

## II 中期的目標と方策

平成 31 年度末までに、以下の目標を達成する。

- 1 高い進路目標に主体的・意欲的に取り組ませることで、国際社会に貢献するトップリーダーに求められる確かな学力、幅広い教養、豊かな国際性とコミュニケーション能力を身に付けさせ、社会に出てから役に立つ「生きる力」を育成する。
- 2 進学指導重点校として、生徒の高い進路希望の実現に取り組み、現役国公立大学合格者 130 名以上（うち東大合格者 10 名以上、東大を含む難関国公立大学合格者 35 名以上）を目指す。
- 3 進学指導重点校にふさわしい教育課程、教育方法を、自主学習体制を確立し、1・2 年生で 3 時間以上、3 年生で 5 時間以上の授業以外の学習時間を確保させる。
- 4 東京都教育委員会から、「チームメディカル（医学部等への進学を希望する生徒がチームを結成し互いに切磋琢磨し支え合う事業）」の実施校に指定されたことを踏まえ、医師としてのキャリア教育と医学部進学指導の充実を図り、国公立大学医学部医学科の現役合格者 7 名以上を目指す。
- 5 有効かつ合理的な時間の活用と意識の切替えの徹底を図ることで、学習を中心としつつ、部活動や学校行事とのハイレベルの両立を目指す。
- 6 生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめを許さない生活指導と体罰根絶を徹底する。
- 7 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校として、国際社会に貢献しうる突出した科学技術系人材を育成するとともに、科学技術のリテラシーを持った地球市民を育てる。

- 8 教育内容や教育活動等の成果を迅速かつ計画的に広く都民に発信することで、募集広報活動の充実と募集倍率の維持・向上を図る。
- 9 学校生活の安全を確保し、生徒の心身の健康の維持・促進や体力づくりのための環境の整備を図る。
- 10 オリンピック・パラリンピック教育や英語教育推進校事業、SSH事業等を活用して将来国際社会で活躍しうる国際感覚を醸成し、国際理解教育を進める。
- 11 経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室の経営参画を推進し、教員と経営企画室職員が連携しながら学校全体で教育目標の達成に努める。

上記目標を達成するための方策として、以下の取組を推進する。

- 1 効果的かつ効率的な教育課程の編成・実施に向けて、不断に工夫・改善を行うとともに、授業時数の確保を図る。
- 2 指導教諭等を中心に、主体的・対話的で深い学び（「アクティブラーニング」）への取組やICT機器の活用等の授業改善に向けた研究・取組を、組織的に推進する。
- 3 個々の生徒の授業以外の学習時間と内容を担任等が把握し指導するとともに、自習室の整備やチューター等を活用により自学自習の条件整備を行う。
- 4 学習ガイダンスやキャリア教育等の充実を図ることで、入学時の高い進学目標を卒業時まで持続させ、目標達成のための努力を促す。
- 5 進路指導計画に基づき、担任だけでなく全ての教科担当者が1学年より3年間を見通した組織的、系統的な進路指導をきめ細かく実施する。
- 6 部活動、学校行事等の意義を踏まえつつ、効果的な活動に向けた一層の活動時間、活動時期等の改善を行う。
- 7 SSHの各種大会、研究発表会並びに諸科学オリンピック等を目指す生徒を育成し、全校的に支援するとともに、その成果を広く都民に発信する。
- 8 ホームページと学校公式ツイッターの更新を定期的に行う等、組織的・計画的に学校情報を発信し、広報活動の充実を図る。
- 9 国際性の涵養を目指して、海外の高校等の姉妹校を拡大し、直接交流やインターネットを活用した間接交流を行う。
- 10 PTA・同窓会等の外部組織との連携により、手厚い教育支援体制を築く。

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策

#### 1 教育活動の目標と方策

##### (1) 学習指導

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 進学指導重点校として、学力向上に向けた組織的、継続的な取組を進める。	①習熟度授業、少人数授業や主体的・対話的で深い学び（「アクティブラーニング」）、ICTの活用等により、個々の生徒の学力に応じたきめ細かな学習指導を行う。 ②基礎学力が不足している生徒に対しては、早期に補習等を行い、学力向上に努める。 ③入学時からの学力の定点観測と「学力進路データベース」の整備により、個々の生徒の現状を全教員で共有し、学力の向上と進路希望の実現を図る。

<p>イ 生徒の自主学習時間を確保するとともに、学習環境を保証する為の支援を行う。</p>	<p>①年2回学習状況調査を実施し、生徒の自主学習時間を調査し、適切な指導を行う。          ②1学年では「中学校での学習から高校での学習」への円滑な移行、2学年では学習を前提とした部活動、学校行事であることの徹底、3学年では第一志望をあきらめず後期入試まで頑張る指導を全校体制で行う。          ③退職ボランティアや卒業生等をチューターとして活用し、自習室を午後8時まで（夏季休業日中は7時まで）開放する。</p>
<p>ウ 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針も踏まえ、国際社会に貢献するトップリーダーにふさわしい幅広い教養と豊かな国際感覚を醸成する。</p>	<p>①日本人としての教養、国際人としての教養を身に付け、多様な文化や価値観を理解しそれを受け入れる知性と寛容さを持つ生徒を育成できるよう、次世代リーダー育成道場への参加や海外の姉妹校等との交流を積極的に進めるとともに、ビブリオバトル等を活用した読書活動や様々な文化活動等の充実を図る。          ②オリンピック・パラリンピック教育の取組として、全教科を通じて日本の歴史と文化に対する理解を深めるとともに、世界友達プロジェクトを推進し、インターネット等も活用しながら海外の姉妹校等との交流を進める。</p>
<p>エ 英語教育推進校として、生徒の英語力の向上を図るとともに、国際社会に貢献する人材を育成する。</p>	<p>①オンライン英会話やJETの活用等により、特に「聞く」「話す」力を育てる。          ②4技能を測定する外部検定試験を1学年と2学年全員に受験させ、総合的な英語力の向上を図る。          ③ALT及びJETを活用し、現代英語として適切な表現ができる力を育成するとともに、理数論文等でも的確な表現ができる力を育成する。          ④英語科教員のオンライン英会話研修により、英語による英語授業を円滑に行えるようにする。</p>
<p>オ SSH事業の一層の充実を図る。</p>	<p>①科学の甲子園等のコンテストでの上位入賞者数、生徒の英語での研究発表の回数を増やす。          ②バーチャルシンポジウムや大学と高校の理系女子交流会を開催するとともに、海外を含む研究機関や大学、高校等との共同研究や直接交流、他のSSH校との連携を強化する。          ③SSH事業での成果を、東京都内及び首都圏の小中学校や高校の教員に発信し、地域の理数教育の発展に寄与する。          ④SSHクラス以外の生徒にも理数講演会や教科融合型の講義、ワークショップ等を行い、理数リテラシーの育成とプレゼンテーション能力の向上を図る。</p>

(2) 進路指導

今年度の取組目標	具体的な方策
<p>ア 進学指導重点校として、1学年から系統的、組織的な進路指導をきめ細かく行う。</p>	<p>①学習ガイダンス等を丁寧に実施することで、入学時の高い進学目標を持ち続けさせ、目標達成のための努力を促す。          ②志望校検討会を活用し、進路部を中心として、学年と教科が個々の生徒の情報を共有して学力向上と進路希望の実現を図る。          ③学校外の機関等と連携し、総合的な学習の時間等を活用して、普通科進学校としてキャリア教育を推進する。</p>
<p>イ 長期休業日中の</p>	<p>①各教科で講習内容を検討し、全員体制で講習に取り組む。</p>

講習の参加生徒数を増やす。	②部活動、学校行事より講習を優先するよう生徒を指導し、講習の参加生徒数を増やす ③早い時期に長期休業日中の講習の講座数・日程等を生徒に周知し、生徒に長期休業日中の学習計画を立てさせる。
ウ 「チームメディカル」の取組を進める。	①在京の医科大学や医学系研究機関、病院等と連携し、生徒向けの講演、見学、体験実習等を行い、課題研究と研究発表会を行う。 ②1年から十分な自主学習時間を確保させ、文系科目も含めて基礎基本を取りこぼすことなく学習させる。 ③医学部医学科に対する客観的かつ正確な進路情報を提供し、首都圏に限らず、日本全国で自分に合った大学を選択できるよう支援する。 ④将来的に文系進学者や医学部以外の理系進学者への活用も視野に入れ、クラウド等を活用して生徒個々の学習状況と学習成果を迅速かつ的確に把握して指導するシステムを確立する。

### (3) 生活指導

今年度の取組目標	①具体的な方策
ア SNSの適切な利用促進に関する指導を徹底する	①望ましい生活習慣を確立する指導の一環として、生徒が意図せずにトラブルや犯罪に巻き込まれたり、他者を傷つけたりすることのないよう、全教職員があらゆる機会をとらえて「SNS戸山ルール」の徹底を図る。
イ 体罰根絶といじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。	①いじめ・体罰に関する調査を年3回実施するとともに、特に部活動において、顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を許さない体制を構築する。 ②法律上のいじめの定義が社会通念上のいじめの概念より広く捉えられていることを踏まえ、学校いじめ対策委員会を活用し、管理職、養護教諭、生徒指導主任、学年主任、学級担任、スクールカウンセラー等が連携していじめの未然防止に努めるとともに、その端緒で速やかな解決を図る。

### (4) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 戸山祭、運動会等の学校行事をとおして、戸山高校生としての一体感を持たせ、学校生活の充実を図る。	①生徒の自主性を尊重しつつ、適時適切な指導を入れ、質の高さを確保するとともに、見通しを持って計画的に準備させることにより、授業や学業との両立を図る。 ②経営企画室と担当教員が連携し、会計担当生徒を指導して適切な会計処理を行う。 ③学校行事終了後、速やかに学習中心の生活に復帰できるよう、全教員が指導を行う。
イ 部活動をとおして、ルールを守り、目標に向かって仲間と協力し、努力する態度を育成する。	①活動内容や活動方法等を工夫することで、短時間で質の高い活動を行うとともに、活動時間や下校時刻等を厳守させることで、メリハリのある活動と自主学習時間の確保を図る。 ②部活動ごとに口座を開設し、部費を一元管理するとともに、通帳や会計報告等を定期的に管理職が確認することで、適正な部費の執行・管理を行う。

(5) 美化・健康づくり

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 心身の健康と安全に対する意識を高め、健全育成を支援する。	①体育科教員及び部活動顧問の適切な指導により、授業や部活動等の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万一事故が発生した際の対応についてシュミレーションを行い、生徒の安全を確保する。 ②関係機関と連携して防犯・防災教育を行い、自分の身は自分で守る意識を持たせる。 ③自転車使用に関する安全指導をはじめとした交通安全指導を徹底する。 ④発達障害等特別な支援が必要な生徒を含む障害のある生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を行うとともに、障害者への理解を深める教育を行う。
イ 「アクティブプラン to 2020」を踏まえ、生徒の体力向上を支援する。	①本校の生徒が弱い「投げる力」等の強化を図り、体力テストの結果を向上させる。 ②オリンピック・パラリンピックをよい契機として、生涯にわたりスポーツに親しむ姿勢を育てる。
ウ 校内美化の徹底を図る。	①ごみの分別や清掃の励行等を全教職員が指導することで、校内美化の徹底を図り、学習に場にふさわしい環境を整備する。

(6) 募集・広報活動

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 組織的かつきめ細かな募集対策の充実を図る。	①本校の特色や強みを重点的にわかりやすくアピールする等の戦略的な募集・広報活動を展開するとともに、学校案内や学校説明会、学校見学会等の充実に努める。 ②経営企画室等とも連携しながら、中学生やその保護者の目線に立った情報発信を強化する。
イ 学校ホームページの充実を図る。	①ホームページによる発信力が学校の評判を左右するという現状を踏まえ、本校の特色や教育活動の様子等をタイムリーに発信するとともに、古い情報の速やかな更新とわかりやすい画面構成の工夫に努める。

(7) 学校経営・組織体制

今年度の取組目標	具体的な方策
ア 校内組織を活性化し、組織的・計画的な学校運営を行う。	①主幹・主任のリーダーシップに基づく分掌・学年・教科内での情報共有と管理職への報告・連絡・相談を徹底し、風通しのよい職場環境を構築する。 ②企画調整会議と進学対策会議を核として、分掌会・学年会・教科会等との情報の相互伝達と共有化を図る。
イ 自律経営推進予算の有効活用を図る。	①計画的な事務執行により、予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。 ②経営企画室と教員が連携し、中長期的見通しに立った施設・設備・備品等の更新を行う。
ウ 図書館の充実と利用率の向上を図る。	①自律経営推進予算に基づく蔵書の充実に努め、生徒の学力の向上、幅広い教養や国際性の育成等に役立つ資料を収集する。 ②ビブリオバトルへの取組や新着図書・推薦図書の紹介等により、生徒に読書習慣

	を身に付けさせる。
エ 教職員のサービスに関する意識を向上させ、サービス事故の根絶を図る。	①サービス事故防止研修を実施し、特に体罰や不適切な指導、セクハラ等の禁止について徹底を図る。 ②個人情報の組織的な収集と適正な管理について徹底するとともに、特に生徒の答案の紛失・誤廃棄を防止するための必要な措置を講じる。

## 2 重点目標と数値目標

重点目標	具体的な数値目標（26年度→27年度→28年度⇒ <u>29年度</u> ）
学力向上と自主学習時間の確保	○一日の自主学習時間 1年生 6月 2時間24分→2時間50分→2時間35分⇒ <u>3時間</u> 11月 2時間50分→2時間49分→2時間57分⇒ <u>3時間</u> 2年生 6月 2時間14分→1時間39分→2時間9分⇒ <u>3時間</u> 11月 2時間30分→2時間24分→2時間44分⇒ <u>3時間</u> 3年生 6月 4時間21分→4時間25分→3時間52分⇒ <u>5時間</u> ○定点観測の11月のベネッセ模試総合成績における国数英の総合偏差値 1年生 74以上 44名→30名→59名⇒ <u>65名</u> 68以上 144名→131名→166名⇒ <u>180名</u> 60以上 312名→281名→299名⇒ <u>330名</u> 2年生 74以上 15名→23名→32名⇒ <u>60名</u> 68以上 56名→103名→124名⇒ <u>170名</u> 60以上 187名→235名→262名⇒ <u>300名</u>
進学重点校としての進学実績の向上	○センター試験5教科以上受験者 239名→223名→258名⇒ <u>240名</u> ○同上760点（約85%）以上受験者 42名→29名→49名⇒ <u>45名</u> ○東京大学現役合格者 7名→2名→5名⇒ <u>8名</u> ○難関国公立大学等（東大・京大・東工大・一橋大・国公立大医学部）現役合格者 26名→21名→29名⇒ <u>28名</u> ○国公立大学現役合格者 128名→106名→113名⇒ <u>120名</u> ○国公立大学医学部現役合格者 2名→2名→2名⇒ <u>3名</u>
募集対策の充実	○応募倍率（推薦）3.97倍→4.02倍→2.75倍⇒ <u>4倍以上</u> （一般）2.48倍→2.14倍→1.81倍⇒ <u>2倍以上</u>
SSH事業の一層の充実	○科学の甲子園等のコンテスト、研究発表会の上位入賞者 48名→73名→55名⇒ <u>80名</u> ○生徒の英語での研究発表 26件→58件→117件⇒ <u>100件</u> ○授業公開、地域向け講演会、研究発表会の開催回数 10回→12回→12回⇒ <u>12回</u> ○SSHクラス以外の生徒向け理数講演会、教科融合型の講義、ワークショップ等の開催 8回→12回→12回⇒ <u>12回</u> ○地域の小学校の教員向けの理科実験講習会の開催 0回→6回→6回⇒ <u>6回</u> ○東京周辺の理科教員向けの研修会の開催 20回→20回→12回⇒ <u>12回</u> ○本校で開催するSSH研究成果合同発表会の発表校数と見学者数 11校233名→17校380名→29校600名⇒ <u>30校600名上</u>